

## 令和5年度京都府豊かな森を育てる府民税事業成果

府民税 使途分野	Ⅱ 森林資源の循環利用									
事業名	Ⅱ-1 ひろがる京の木整備事業									
事業概要	<p><b>1 目的</b> 住宅や民間の商業施設等の木造・木質化とともに、多くの府民等が利用する施設への木製品の導入等を支援し、府民が京都の木を身近に感じる環境づくりと地球温暖化の防止及び森林資源の循環利用を促進する。</p> <p><b>2 内容</b></p> <p>(1) 建物型</p> <p>①住宅タイプ 住宅の木造・木質化を行う工務店（府の認証を受けた「緑の工務店」）を支援</p> <p>②非住宅タイプ 商業施設やオフィス等民間施設の木造・木質化を行う事業者（施主）を支援</p> <p>③普及啓発 建築物への府内産木材の利用拡大に向けた広報活動への支援や情報収集等を実施</p> <p>(2) 木製品型</p> <p>①木製品導入支援タイプ 民間の府民利用施設への木製品の導入を支援</p> <p>②開発支援タイプ 木材加工業者等による木製品の新規開発・PRを支援</p> <p><b>3 事業実績（R5年度）</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">事業区分</th> <th style="width: 25%;">事業費</th> <th style="width: 50%;">主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 建物型</td> <td style="text-align: center;">70,773千円</td> <td>上記2（1）のとおり</td> </tr> <tr> <td>(2) 木製品型</td> <td style="text-align: center;">25,362千円</td> <td>上記2（2）のとおり</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 建物型</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>住宅・民間施設等への 木造・木質化への支援 京都市</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>民間施設の木造・木質化の 優良事例表彰</p> </div> </div>	事業区分	事業費	主な内容	(1) 建物型	70,773千円	上記2（1）のとおり	(2) 木製品型	25,362千円	上記2（2）のとおり
事業区分	事業費	主な内容								
(1) 建物型	70,773千円	上記2（1）のとおり								
(2) 木製品型	25,362千円	上記2（2）のとおり								

(2) 木製品型



府民が利用する施設への木製品導入への支援  
(イオンモール桂川の木育スペース)



府内産木材を活用した木製品の  
新規開発への支援  
(北山丸太を活用したパーティション)

※ ( ) はR4実績

指標	R5 年度実績
II-1 府民が京都の木を身近に感じる環境づくり	(1) 建物型 住宅タイプ 162件 1,697㎡ (150件 1,822㎡) 非住宅タイプ 13件 213㎡ ( 6件 143㎡) 優良事例表彰・パンフレット・HP作成など (2) 木製品型 導入支援タイプ 55件 (35件) 開発支援タイプ 5件 ( 7件)

自己評価

1 上記実績となった理由

II-1 府民が京都の木を身近に感じる環境づくり

- ・府内産木材の利用促進を図るため、本事業をはじめ、他財源により実施している、府民の木材利用に係る気運醸成を図る取組や川下の需要を核とした府内産木材の需給体制の構築への支援などの効果が出てきており、府内産木材の需要量が着実に増えてきている。
- ・令和5年度は、本事業について、住宅において梁などの横架材へ府内産木材を利用した場合や、川上から川下までの事業者グループ間で流通した府内産木材を利用して建築物を整備した場合の補助率の加算を行う制度拡充により他事業と連携したことで、両事業の活用が増加するなど、安定供給体制の構築に寄与した。
- ・本事業の広報について、府内産木材の活用事例について優良事例の表彰やパンフレット・HPなどにより、木材の魅力を府民へ広くPRしたほか、事業者への制度説明会の開催等を引き続き実施したことにより、今年度の取組件数が増加し、事業の効果がより現れている。
- ・木製品型では、多くの府民が利用する保育園や店舗などの民間施設へ支援を実施するなど、支援件数が前年度に比較して約1.5倍に増加した。
- ・府内産木材を利用した新たな木製品の開発に対する支援により、新たな用途開拓に繋がった。

2 地域住民や実施主体の意見

- ・事業を実施した事業者からは、「府民の森林・木材への関心が高く、支援の活用は顧客獲得に有効だった」、施設の利用者等からは、「自然素材である木を身近に感じられる機会が増えた」、「木材の魅力を子供に感じさせられる機会ができた」との感想が寄せられ、府民や事業者のニーズに応えた事業が実施できている。
- ・木材製品の開発を行う事業者の多くから「自社製品に府内産木材の魅力を加えるといった新たなチャレンジができた」との意見が聞かれているところであり、府内産木材の新たな用途開発に繋がっている。

3 今後の事業の方向性

- ・令和4年度の「京都府産木材の利用等の促進に関する条例」の施行や「京都府産木材の利用の促進に関する基本方針」の策定を受け、住宅・民間施設の木造・木質化等へ重点的に支援する。
- ・令和6年度は、住宅への府内産木材の利用に新たに取り組む事業者に対する補助率の加算や、集客効果の高い民間施設での木製品の導入に対し、支援の上限額を拡充するなど、府内産木材のさらなる需要拡大の取組を推進する。

評価委員会の意見

- ・積極的に進めていただきたい